

市民の身近で手軽な交通手段 地域公共交通を 利用しましょう

市は、地域公共交通のあり方について「留萌市地域公共交通総合連携計画」に基づき推進し、円滑な地域公共交通の実現を目指します。

地域公共交通の必要性

地域公共交通とは電車やバス、タクシーなど不特定多数の方が通学や通勤、通院、買い物など、身近な移動手段として手軽に利用できる交通手段です。

しかし、マイカーの普及や人口の減少などにより、地域公共交通の利用者は大幅に減少しています。このような状況が続くと、公共交通事業者の収益が減少し、運賃の値上げや便数の削減、路線の廃止につながり



▲今後、重要性が高まる地域公共交通

かねません。一方、加速する高齢化社会により、バスなどの地域公共交通の重要性が高まり、公共交通空白地域の解消が求められます。

留萌市地域公共交通活性化協議会の設立

市は平成21年3月、公共交通事業者、道路管理者、公安委員会、学校関係者、商業関係者、公共交通空白地域の町内会、北海道運輸局、留萌振興局などと、留萌市地域公共交通活性化協議会を設立しました。

公共交通空白地域の解消や高齢化などによる市民の交通手段の確保のため、バス路線の見直しやバスによる実証運行などを目的とした「留萌市地域公共交通総合連携計画（22年度）」を策定しました。

留萌市地域公共交通総合連携計画に基づき推進

留萌市地域公共交通総合連携計画は、市内全域を計画区域に定め、下記の4つの基本方針をもとに、短期

多様な生活スタイルに即した交通体系の実現を目指して

留萌市地域公共交通活性化協議会では、今後も交通需要を的確に把握し、需要の少ないバス路線や時間帯の見直しなどによる再編、公共交通空白地域の解消に取り組んでいきます。さらに、中心市街地の商店街と

的計画と中・長期的計画の2つの計画で構成されています。短期的計画は、22年度から24年度までの実証期間を経て、25年度までに本格的な運行と持続可能な運営体制の実現を目指します。

中・長期的計画は、22年度から26年度まで継続的に協議を行い、本格的な運行と着実な事業の展開を図ります。

また、計画期間中は関係者と密接に連携し、市民との合意を図りながら、継続的に評価および改善を行うことで、地域公共交通の活性化を推進していきます。

【基本方針】

- ① 地域特性と市民のライフスタイルに即した効率的な公共交通の構築
- ② 中心市街地と地域公共交通の連携による相互の活性化を推進
- ③ 市民の公共交通に対する意識向上と幅広い交通情報の発信などによる公共交通の利用促進
- ④ 誰もが利用できる快適な公共交通の利用環境整備

の連携、ノーマイカーデーの促進、地域公共交通の利用意義を伝える教育やセミナーによる啓発活動、地域懇談会の開催など、さまざまな活動を通して、市民の皆さんの多様な生活スタイルに即した交通体系とマッチづくりとの連携を図り、円滑で効率的な地域公共交通の実現を目指して取り組んでいきます。

日東団地線が本格運行

留萌市地域公共交通活性化協議会では、留萌市地域公共交通総合連携計画策定のために、地域公共交通のニーズや日常の移動手段の把握を目的としたアンケート調査、利用者実態把握のため、市内バスの乗降者調査を実施しました。

留萌市地域公共交通総合連携計画に基づき、見晴町や千鳥町、春日町の公共交通空白地域を対象に、平成21年度に路線バスの試験運行、22年度には実証運行を行いました。

その結果、見晴町6丁目を帰着点に留萌駅を経由し、市立病院を往復する路線について、地域の皆さんの一定の利用が見込めるとして、23年10月から沿岸バス株式会社を運行主体に「日東団地線」の本格運行に取り組んでいます。

日東団地線は、小回りが利きバリアフリーに対応した小型の低床バスを導入し、土・日曜日と祝日を除く1日上下4便が運行しています。

23年10月の運行開始から25年9月までの2年間に延べ19,158人が利用し、目標の1日1便当たりの平均乗車人数10人を達成しています。

●日東団地線の便別乗車人数と1日1便当たりの平均乗車人数

区分		平成23年10月～24年3月	平成24年4月～24年9月	平成24年10月～25年3月	平成25年4月～25年9月	2年間の合計	
		乗車人数	乗車人数	乗車人数	乗車人数	乗車人数	1日1便当たりの平均乗車人数
見晴町6丁目発	1便(7:53)	1,171人	1,014人	1,217人	1,133人	4,535人	9.4人
	2便(10:00)	1,911人	1,562人	1,785人	1,512人	6,770人	14.1人
市立病院発	3便(11:30)	1,016人	947人	1,016人	919人	3,898人	8.1人
	4便(15:40)	1,032人	731人	1,236人	956人	3,955人	8.3人
合計		5,130人	4,254人	5,254人	4,520人	19,158人	10.0人

最も利用されているのが、見晴町6丁目午前10時発の第2便で、6,770人と全体の約35・3%を占めています。また、冬季に利用者が増加することが分かりました。

- 市内循環バス、通院・買物バスの運行
- 公共交通空白地域への路線の整備



▲小型の低床バスを導入

今後も

さまざまな活動を通して効率的な公共交通の実現を目指します



▲活発な意見が交わされた地域懇談会

- 中心市街地の商店街との連携
- 地域公共交通の利用意義を伝える教育、ノーマイカーデーの促進
- 公共交通セミナー、地域懇談会の開催